

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611713219		
法人名	医療法人 中西内科クリニック		
事業所名	グループホーム美郷		
所在地	徳島県吉野川市美郷毛無93-2		
自己評価作成日	令和4年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川などのある自然豊かな場所に位置し、初夏には虫が飛び交う良い環境といえる。気候に応じた散歩、また季節ごとの行事に参加して地域の方々との交流・友好を深め、地域に届け込むよう支援している。また、ホームでは可能な限り自由に、また健康で楽しく過ごしている。連携する医療機関との24時間対応可能な連携体制により健康管理を行い、安心した生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな山間部に位置し、生活の中で四季の変化を楽しむことができる。事業所理念として“みんなでいっしょに支えあう”を掲げるとともに、理念を反映した3つの方針を示し、利用者一人ひとりに寄りそった支援に取り組んでいる。同一法人が運営する他サービス事業所が併設し、定期的な研修会や災害時の避難訓練等に協力して取り組むなど、連携体制を整備している。また、法人が運営する医療機関とも連携し、定期的な訪問診療や訪問看護、緊急時の医療体制なども構築している。また、本年度より、海外の実習生の受入れを行い、実習を通じて、職員間でも新たな気づきを得る機会となっている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出等が難しいなかにおいても、安全面に配慮しつつ、外出や面会を行うなど、利用者や家族等の希望にあわせた支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員が入った時は必ず理念を伝え理解してもらえるようにしているミーティング申し送り時にも理念に必ず触れ確認し合うようにしている	事業所では、全職員で協議・検討し、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。申し送り等の機会に、理念について立ち返り、日ごろの実践に繋げている。また、毎月の報告書や事業所だよりにも理念を記載し、広く周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴やホーム周辺ですが散歩に出かけ近所の方とあいさつを交わしたり近所の方から声をかけていただいたり野菜を持って来てくれる方もいます	事業所では、地域住民やボランティア、近隣小学校などへの訪問・来訪があるなど、積極的に地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、散歩の際に挨拶を交わしたり、地域清掃に参加したりして、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のグループホームだよりを中止していましたが職員と話し合いR3年1月より開始しホームでの行事利用者の暮らしぶり等をお知らせしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できませんがコロナウイルス感染予防、行事報告等職員間で話し合った議事録を吉野川市に提出している	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所や利用者等の現況について、職員間で協議・検討し、結果を市の担当職員へ報告している。しかし、具体的な課題や事業所が目指す取り組みに向けて、意見等を得るまでには至っていない。	今後は、感染状況を考慮しつつ、書面や電話などを活用し、各委員から意見等を得るような工夫が望まれる。また、出された意見等について、協議・検討するとともに、各委員にも共有化を図り、双方向的な情報共有の機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	議事録提出時やケアプランを提出時は必ず吉野川市に行き顔を合わせて話をしホームでの状況や利用者に関すること等を相談している。その都度電話でのやり取りも行っている	職員は、定期的に、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所や利用者等の状況を報告し、助言等を得ている。また、地域包括支援センターとも連携を図り、入所相談を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束に対する弊害や悪影響について話し合い拘束をしないケアに取り組み言動にも注意し職員間で声を掛け合っている	事業所では、身体拘束廃止委員会や研修会を開催し、拘束の内容や弊害について、職員間での周知・理解を図っている。職員は、利用者一人ひとりの意向や行動を確認しつつ、拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で研修を行いまた日々のケアの中でイライラし声が大きくなることもある。その時は少し時間を空ける、または外に行き気持の切り替えをしケアにあたるようにし虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で研修を行い機会あるごとに職員に説明し理解を深めるようにしているが難しいようで支援できる体制が万全とは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。特に利用料金や起こりうるリスクについても説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族になんでも話してもらえる関係を築き面会時に意見や、要望を気軽に話せる環境を作り意見、要望があれば職員間で話し合い運営に反映していけるよう努めている。また意見箱も設置している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等については、毎月の事業所だよりの発送時や面会のために来訪した際に、意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろからコミュニケーションを図るように心がけ問いかけたり聞き出したりするようにしている話づらい部分については個別に時間を取り話を聞いている	管理者は、日ごろの支援や職員会などの際に、意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。本年度より、海外の実習生を受入れ、支援方法を伝えるなかで、職員間での気づきや振り返りに繋げている。出された意見等をもとに、マニュアルを見直すなど、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Drの週1回の往診時に状況報告を行ったりDrも個々の職員に話しかけ業務や悩みを把握している管理者からも報告を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外国人実習生を受け入れることになり事前研修を行い1人ひとりの力量に合わせた指導方法を話し合いをしました。実際受け入れてみてある程度の日本語は話せるが気持ちを伝えるのは難しく指導の仕方がまちまちになり足並みがそろいう話し合いを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ事業所内のグループホームで交流の機会を作っている。演習の機会も少なくなったができるだけ職員も参加できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努めご本人の求めていることや不安を理解してあげられるよう工夫している。職員が本人に受け入れられるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し事業所としてはどのような対応ができるか話し合っている。家族の話しに途中で口出しせずゆっくり聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人や家族の思い、状況等を確認し相談を繰り返す中で信頼関係を築きながらサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており本人の暮らしの中で分かち合い共に支える関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族への報告書を作成し本人の生活状況や体調、本人の思いを報告し家族にしかできないこともあるため話し合いながら共に本人を支えていける関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会もできない状態ですが会いたいとの要望もありガラス越しですが家族と面会をされ電話での会話ができるよう支援している	事業所では、利用者や家族等から聞き取り、本人の人間関係や社会関係の把握に努めている。家族等の協力を得つつ、馴染みの人や場所との関係継続支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、電話等を活用し、関係が途切れることのないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり相談に乗ったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせるよう利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整しながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った利用者の所に面会に行ったり、家族に電話をし、その後の様子を聞き、継続的な付き合いができるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や、表情から、本人の希望を把握し一人ひとりに合った生活ができるよう努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。意思の表出が困難な方は、家族等から生活歴などを聞き取りつつ、会話や仕草、表情などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族 関係者などから聴き取るようにしている利用後も折りにふれ本人や家族にどんな生活していたのかを聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し行動や小さな動作から感じ取り、できないことよりできることに注目しその人全体の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴き反映されるようにしている。アセスメントを含め職員全員意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。毎月、モニタリングの際に、利用者のできること・やりたいことなどを大切にしつつ、計画を見直している。また、随時、変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が情報を確認し本人や家族の要望を取り入れ期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了前であっても検討を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせた柔軟な支援ができるよう職員間で話し合いその時々合った支援が行えるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察や民生委員と意見交換ができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体機関より毎週火曜日に往診と月1回の個別訪問診療があり利用者の状態報告を行い医師との連携を取り本人や家族の希望により他の医療機関に受診できるよう支援している	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。同一法人が運営する医療機関から、週1回の往診や週2回の訪問看護があるなど、日ごろから連携・協力している。また、緊急時には、24時間対応可能な体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関から週2回の訪問看護があり利用者の状態、介護上での不安等を相談し助言を受けて適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために利用者の状態を医師、看護師に聞きに行き家族に報告、家族の意向も踏まえ退院支援に結びつけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に本人の状態を報告し重度化した場合は家族と話し合い何処までできるか十分説明しながら方針を共有できるよう取り組み急変時にはすぐに対応してもらえるよう医療機関とも密に連携を図り対応している	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。随時、本人の心身状況の変化に応じて、家族等に意向を確認しつつ、主治医を含めた関係機関等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で急変時や事故発生時の対応を指導し慌てず対応できるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めている。地域での防災訓練に参加させてもらえるよう話を進めている災害時近隣住民に協力してもらえるよう話し合っている避難場所の確認も行っている	年2回、地域の消防署の協力を得て、併設の他サービス事業所と合同で避難訓練を実施している。火災や地震、洪水等を想定し、避難経路等を確認している。また、備蓄品を1週間分整備するとともに、定期的に炊き出し訓練を行うなどして、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを傷つけないような言葉かけや行動等様々な場面で対応できるような心がけ実践につなげられるよう努めている	職員は、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した支援に努めている。本人のその人らしさや気持ちを大切に捉え、声のかけ方などに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の希望や思いを汲み取り自分で決められるよう支援している。意思表示が出来ない方でも表情や動作で分かることもあるため反応をみながら把握できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しその日その時の本人の気持ちを尊重しできるだけ個別性のある支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく自分で着たい服を選んでもらい決められない方については一緒に選び自分で決められるよう支援している。不定期ではあるがお化粧品ボランティアに来てもらっていたが今はきてもらえない。感染が落ち着けば計画を立てたい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器をならべたりトレイを洗ったり拭いてもらい職員も一緒に行い昼食会では利用者とメニューを考え一緒に用意をし楽しく食事が出来るようにしている。また毎年のラーメンパーティは好評で毎年の行事となっている	食事は、法人の管理栄養士が考えた、栄養バランスの良い食事を提供している。テーブル拭きや配膳など、利用者と職員が一緒に行っている。また、年1回、バイキング形式の食事を実施するなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により調理を行い必要な栄養を十分取れるようにしている。水分摂取については1日に水分量をチェックし個々に記録を行い十分水分が取れているか確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている誤嚥性肺炎の予防にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握しトイレ誘導することでトイレで排泄できるよう支援し尿意のない利用者にも時間を見て誘導しトイレで排泄できるよう支援している	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報をもとに、トイレ誘導を行っている。夜間は、利用者一人ひとりの状態に配慮しつつ、できる限りトイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になるとどうなるのかを職員間で話し合い繊維質の多い食材や食事量、水分量をチェックし運動も取り入れながら予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴できるようにしているがそれ以外希望があれば入浴できるようにしている。また拒否がみられる方には何回か声かけし入れなくても毎日声かけタイミングを図り入浴出きるよう対応し夜間も入浴可能となっている	事業所では、週3回、入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望や状況等にあわせて、足浴を行ったり、同性介助を行ったりしている。また、季節にあわせて入浴剤やゆず湯を行うことで、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中役割活動や散歩に出て気分転換を図りゆっくり体を休めるよう支援し眠れない方についてはお茶を一緒に飲みながら話相手をし落ち着けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し血圧の薬は必ず服薬前に血圧を計りその日の体調、状態を把握するよう努め変化があれば看護師に相談するようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で利用者の外出家族との外出はできませんが施設周辺の散歩外気浴で気分転換になるよう支援している	事業所では、気候のよい日には散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、近隣を散歩するなど、利用者が屋外で気持ちよく過ごすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については家族と相談し、本人の安心感や満足のためお金を持っている方もいる。買い物に行く時は支払いができるような工夫をしているが今は行けていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい雰囲気作りや職員から声かけを行い利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花をいけ、ホールでゆったりと過ごせるようにソファを置きくつろげる空間を作り台所では食事の匂いや音がし家庭的な雰囲気になるよう工夫している	共用空間は広く、清潔感がある。壁面は、季節ごとに飾りつけを変えることで、四季を感じることができるようにしている。テレビの横や正面にソファを設置し、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置きゆっくりと過ごせるよう工夫し利用者一人ひとりが自分のペースで過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には自分の好きな物や思い出が詰まったものを置き本人が落ち着いて過ごせるように工夫している	居室には、家具やテレビ、調度品など、利用者にとって馴染みのある物を持ち込んでもらっている。家具の配置等を工夫し、居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合わせ出来る事、分からないことを把握し個人に合わせ自立した生活が送れるよう工夫している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりに合わせ出来る事、分からないことを把握し個人に合わせ自立した生活が送れるよう工夫している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴やホーム周辺ですが散歩に出かけ近所の方とあいさつを交わしたり近所の方から声をかけていただいたり野菜を持って来てくれる方もいます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のグループホームだよりを中止していましたが職員と話し合いR3年1月より開始しホームでの行事利用者の暮らしぶり等をお知らせしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できませんがコロナウイルス感染予防、行事報告等職員間で話し合った議事録を吉野川市に提出している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	議事録提出時やケアプランを提出時は必ず吉野川市に行き顔を合わせて話をしホームでの状況や利用者に関する事等を相談している。その都度電話でのやり取りも行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束に対する弊害や悪影響について話し合い拘束をしないケアに取り組み言動にも注意し職員間で声を掛け合っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で研修を行いまた日々のケアの中でイライラし声が大きくなることもある。その時は少し時間を空ける、または外に行き気持ちの切り替えをしケアにあたるようにし虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で研修を行い機会あるごとに職員に説明し理解を深めるようにしているが難しいようで支援できる体制が万全とは言えない					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・退居解約時には十分な説明を行い、不安のないように努めている。また改訂時には家族に連絡し、理解・納得が得られるように説明している。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時には利用者の状況を報告をし意見や要望を聞くようにしている					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が何でも話せる関係作りを行い意見や提案があればその都度話し合い、必要に応じて個別に面談を行っている					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・疲労やストレスの度を把握に努め、業務マニュアルも職員と話し合い働きやすいよう変更しストレス等を軽減できるよう努めている					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人事業所内研修を行い1人ひとり力量を把握し、良いところを伸ばせるよう指導し意欲的に働けるよう努めている個人の評価表を作成し向上を把握できるようにしている					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市での連絡協議会や研修に参加していました。今は開催回数が少なくなりましたが職員もできるだけ参加しサービス向上に取り組んでいる					

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安に思っていること と要望等をよく聞いてあげられる時間を作り 安心して生活が送れるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族、利用者一緒に見学に来て いただき雰囲気を感じてもらい不安なこと、 又要望を聞きより良いサービスに繋がるよう 取り組んでいる			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をしっかりと把握し安心 してサービスが受けることができるよう努め ている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすと言う意識を持ち教えあったり 励まし合ったりしながら生活を共にし信頼関 係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに寄り添い家族の意向を聞 きながら本人と良い関係が築けるようにし家 族に出来る事は協力していただいている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会もできない状態ですが会いたいとの 要望もありガラス越しですが家族と面会を され電話での会話ができるよう支援している			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、 その方が力を発揮できるように声かけを行 なったり、一緒に行事に参加できるよう努め ている			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った利用者の所に面会に行ったり、家族に電話をし、その後の様子を聞き、継続的な付き合いができるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察しその中で思いや希望を把握するように努めている。家族からも聞くようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居まえの生活状況を家族から聞いたり日々の暮らしの中で本人からも聞き、情報収集に努め1人ひとりの自分らしい生活が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。その中で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく暮らすために本人や家族の要望を家族面会時に、話し合ったり、電話をするなどして、介護計画の作成に活かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に日々の様子や気が付いたことを書きとめ職員間で情報を共有し実践や計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望に応じて通院や送迎等の必要な支援が行えるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう警察や民生委員と意見交換ができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関に週1回の往診月1回の個別訪問診療があり必要に応じて受診できるよう医師との連携をとり支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師が定期的に訪問し利用者の不安や身体状況の相談、助言を受けている。体調に変化ある時は看護師に報告し適切な医療が受けられよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために医師と密に連携をとり事業所内での対応可能な段階で退院できるようにし家族とも情報を交換しながら退院支援に結び付けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に本人の状態を報告し重度化した場合は家族と話し合い何処までできるか十分説明しながら方針を共有できるよう取り組み急変時にはすぐに対応してもらえるよう医療機関とも密に連携を図り対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で急変時や事故発生時の対応を指導し慌てず対応できるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い利用者のスムーズな避難方法の習得に努めている 地域での防災訓練に参加させてもらえるよう話を進めている災害時近隣住民に協力してもらえるよう話し合っている避難場所の確認も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重しさりげない声かけ言葉かけを心がけている。プライバシーの確保に注意し記録など個人情報の取り扱いの徹底に努めている					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話から本人の思いや希望を汲み取り1人ひとりが自分で決定できるような場面を提供するよう心がけている					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しその日その時の本人の気持ちを尊重しできるだけ個別性のある支援を行っている					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく自分で着たい服を選んでもらい決められない方については一緒に選び自分で決められるよう支援している。不定期ではあるがお化粧ボランティアに来てもらっていたが今はきてもらえない。感染が落ち着けば計画を立てたい					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり誕生会には手作りのケーキを提供している。また準備、片付けが出来る方には手伝って頂いたり味見をして頂いている					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により調理を行い必要な栄養を十分取れるようにしている。水分摂取については1日に水分量をチェックし個々に記録を行い十分水分が取れているか確認している					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている誤嚥性肺炎の予防にも努めている					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握しトイレ誘導することでトイレで排泄できるよう支援し尿意のない利用者にも時間を見て誘導しトイレで排泄できるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には朝牛乳や繊維質の多い食材を提供したり、水分補給の声かけを行い自然排便ができるように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は基本的には安全安心に入浴して頂くため職員の多い時間帯になっているが利用者の希望やタイミングに合わせてながら入浴出きるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や体調に合わせて休息できるように環境整備をしている。夜間寝付けないときには一緒にお茶を飲んだり話相手をして対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルを作成し薬の目的や副作用等を把握できるよう努力している。また薬の変更や状態の変化があるときは記録し申し送りで連携を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や出来る事を把握し個々に合わせた役割活動に参加して頂き生活に張り合いが持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で利用者の外出、家族との外出はできませんが施設周辺の散歩外気浴で気分転換になるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については家族と相談し、本人の安心感や満足のためお金を持っている方もいる。買い物に行く時は支払いができるような工夫をしているが今は行けていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けたり手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節の花をいけ、季節感を感じてもらえるよう工夫し共用の空間は広々としていて窓からは川や自然の景色が眺めれるようになっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置き気の合った利用者同士で座れる場所や独りになれるスペースの場を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用することでの利点を家族に理解して頂き協力を得て馴染み深い物を家から持ってきていただくようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の了解を得て表札や造花などを飾り分かりやすくしたりトイレの場所を表示しそれでも分からなくなってしまう利用者には声かけし案内している		